

三中学校目標

- ・ 確かな学力と自律の精神を身につけるとともに、自立に向かう生徒を育てる
- ・ 人権を尊重し、平和で民主的な社会の形成者を育てる

自律：自分で気づき、考え、行動できること

自立：自分でできることは自分でやり、必要なときには、助けを求める人間関係をもつこと

【三中のめざす生徒】

- 【意欲・学びあい・思考・表現】
 - ・ 自ら進んで学習し、学びあう生徒
 - ・ 自ら考え、自ら行動できる生徒
- 【自律】
 - ・ 集団の一員としての自覚をもち、きまりを守る生徒
 - ・ 学校生活をよりよくしようとする意欲的・活動的な生徒
- 【つながり】
 - ・ 対等な人間関係でつながり、助けあい、いじめを許さない生徒
- 【健康】
 - ・ 生命の大切さを学び、心身の健康に関心をもつ生徒
- 【自立・社会参加】
 - ・ 自立に向かう生徒
 - ・ 社会にかかわろうとする生徒

【三中がめざす学校】

- 生徒同士の対話があり、学びに向かう力を育む授業 → **班学習活動**
- 基礎基本をもとに、確かな学力（思考力・判断力・表現力）を育む授業
- 生徒の自主活動が活発な学校 → **委員会活動
実行委員会活動
ボランティア活動**
- 人権尊重で貫かれた教育を進める学校
- 平和の大切さを学ばせる学校
- 生徒同士をつなげる取り組みを進める学校 → **一貫教育推進**
- 生命の大切さを学び、心身の健康増進を促す学校

教職に
い
そ
し
む

- ① 「い」【一貫教育】校区一貫教育で、15歳までの成長を見守ります
- ② 「そ」【双方向】学校と家庭・地域とがおたがいにつながるように努めます
- ③ 「し」【信頼】すべての生徒の可能性を信頼し、成長を支えます
- ④ 「む」【夢中】夢中になり、教職の専門性と同僚性を高めあいます

1. 教育目標の具現化に向けて

以下の項目に取り組む。

(1) 学習指導

- ①すべての教科・領域において、生徒の実態をふまえた系統的・計画的な年間指導計画を作成し、指導の充実を図る。
- ②生徒の学習習慣の定着に取り組むとともに、学びに向かう意欲を育み、知識・技能（基礎・基本）の充実と「活用する力」の伸長を図り、「確かな学力」の向上を図る。
- ③生徒の思考力・判断力・表現力を高めるため、課題解決型学習の授業実践をめざす。
- ★④生徒が学びあう活動を、授業研究体制を通して推進する。
- ⑤ICTの活用、班学習活動の充実等、指導方法や指導体制の工夫・改善を進める。
- ⑥一貫教育推進コーディネーターを中心に、校種間連携会議を活用し、保幼小中相互の保育・教育内容・教育活動の交流を促進する。教職員が連携することはもとより、子ども同士の交流活動に広げていく。
- ★⑦職場体験学習を含めキャリア教育を推進し、生徒の勤労観・職業観を育て、将来に対する目的意識を持ち、多様な進路選択をはじめとした社会にかかわろうとする力を育成する。
- ★⑧「情報センター」としての機能を持つ図書館を活用し、教科学習との連携、「朝の読書週間」を行うなど、生徒が本に親しむ読書活動を充実させる。

(2) 人権教育

- ①新箕面市人権教育基本方針をふまえ、教職員が多様な人権問題や平和の大切さへの認識を深め、人権感覚を磨き、人権意識を高めるための研修を実施するとともに研究会等の活動を活用する。
- ②「総合的な学習」「道徳の時間」を活用し、人権教育の系統的・計画的なカリキュラムづくりを行い、指導の充実を図る。さらに、すべての教科で、人権尊重の視点で貫かれた授業を行い、教育活動全体で人権教育を推進する。
- ★③地域の人、公的施設、NPO 団体等との交流を通じて、生徒の豊かな学びや人との出会いを広げ、人権意識の涵養を図る。
- ④生徒同士が対等な関係で豊かにつながり、助けあい、いじめを許さない学級・学年づくりを進める。
- ★⑤不登校・不登校傾向の生徒に必要な支援（スリーピース教室の利用等）を行い、学校・学年・学級とつながるようなサポートを全教職員で行う。
- ⑥違いを認め合い、だれ一人取り残されない集団づくりを推進する。
- ⑦SDGs（持続可能な開発目標）とさまざまな人権課題を結び付けながら系統的な人権学習を展開していく。

(3) 支援教育

- ①「仲間づくりは最大の支援」の理念のもと、通常学級の仲間づくりを深め、支援を要する生徒の学校生活の安定を図る。
- ②支援教育の視点（合理的配慮、UD等）を取り入れた授業研究を引き続きおこなうことを通して、通級指導担当とも連携しながら、通常学級における授業の充実と発展を図る。

- ③支援を要する生徒の理解や指導内容・指導方法の工夫改善のための情報を、支援コーディネーターを中心に発信し、計画的な研修に努める。
- ④「障がい理解教育」を実施し、「ちがいを認め互いに理解し助け合える生徒」を育成する。
- ⑤支援学級は、在籍する生徒の基本的な生活習慣確立と基礎的な学力・自立できる力の獲得を支援する場として位置付ける。
- ⑥支援教育連絡会で支援を要する生徒についての情報交換をおこない支援の方法を検討していく。
- ⑦進路については、在籍する生徒本人と保護者の思いに寄り添い、一緒にさぐっていく。
また支援学級在籍生徒・支援を要する生徒について、卒業後３年間の追指導をおこなう。

(４) 生徒指導

生徒指導提要にある「重層的支援構造」の「発達支持的生徒指導」の充実に注力する

↓ そのために

- ① 個々の生徒が持つ生徒指導上の課題を正確・適切に把握し、その指導方法や課題の解決に向けて、ＳＣやＳＳＷ等の協力を得ながら、生徒指導の研修・研究の充実に図る。
- ②心のふれあいや命を大切にす指導を充実させるとともに、生徒指導主事・人権教育担当・支援教育コーディネーター・保健主事の協力のもと、学年との連携体制を確立し、問題行動やいじめ・不登校等の未然防止に努めるとともに、課題解決を図る。
- ③ 生徒の自治活動を推進し、生徒の自浄作用を引き出しながら、公共の精神を培い、自分の安心と集団の発展を追求する生徒指導（「市民性教育」）を進める。
- ④ 学校行事や生徒会・学年の取組等を通じて、生徒の自治の力を高めるとともに、集団指導の充実に図る。また、生徒相談等の個別指導を充実させる。
- ⑤ 家庭をはじめとして、地域社会ならびに関係機関・専門機関との連携を密にし、双方向の関係を築き、相互の理解と協力を得て、指導を充実させる。
- ⑥ 地域とのつながりや社会にかかわろうとする力を、ボランティア活動を通じて築けるようサポートする。

(５) 健康安全教育

- ①健康安全指導を計画的に推進するとともに、その内容を充実させ、個々の生徒の健康及び安全に関する自己管理能力を高める。また、危機管理のための訓練を計画的に実施し、教職員の研修機会を確保する。
- ② 生徒が心身の健康に関心をもち生涯にわたって運動を楽しみ、体力の向上及び健康の増進に取り組む習慣形成を図る指導を充実させる。
- ③学校の施設・設備等の安全点検・管理に努め、修繕が必要な場合には速やかに対応する。

(６) 道徳教育

- ①道徳の時間の内容項目を取りあげ、教科・領域との計画的な関連づけを行い、教育活動全体で道徳教育を推進する。

- ② 道徳教育推進担当を中心に、生徒の現状に応じた、生徒の心の内面に届く指導をすべての教職員で行い、人としての生き方等についての自覚を高め、道徳的判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。
- ③ とくに、集団の一員としての自覚を高め、自律してきまりを守る態度を重点的に指導することで規範意識の向上を図る。
- ④ 「読み物教材」等の道徳教材を活用し、答えが一つではない課題に向き合い、生徒同士が意見を交流する活動を通じて思考力を高めるとともに、実践力を育てる指導を進める。また、実践した教材を蓄積して、その改善を図る。

2. 本年度の重点課題

★集団づくり

班学習活動の充実と、委員会活動・実行委員会活動やボランティア活動の充実を図る

★授業研究

支援教育の視点（合理的配慮、UD 等）を取り入れた授業研究とともに、授業における PDCA サイクルの確立

★小中一貫教育推進校としての取組の充実化